

令和8年(2026年)8月26日(水)

(公財)広島平和文化センター

平和記念資料館学芸展示課 課長：豆谷

電話：242-7796 内線 5804

担当：沖田

広島平和記念資料館本館「市民が描いた原爆の絵」の原画の展示入替

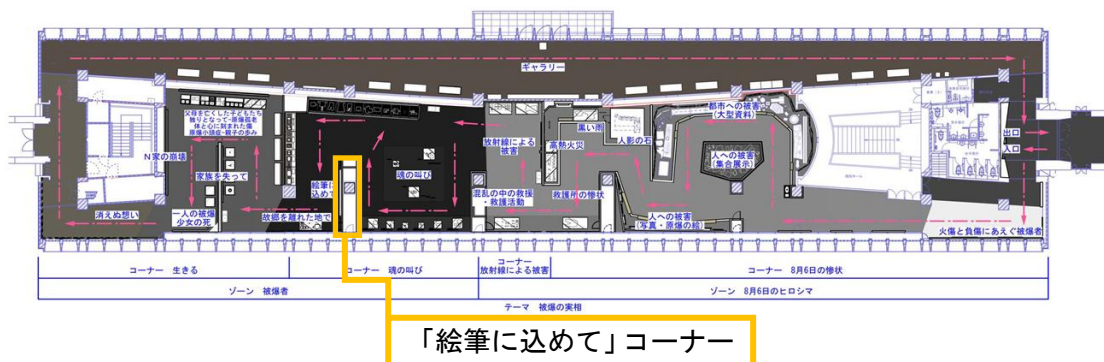
広島平和記念資料館本館展示「絵筆に込めて」のコーナーには、被爆者が当時の情景を思い出して描いた「市民が描いた原爆の絵」の原画を展示しています。この度、展示による絵の劣化を防ぎ、長期的に保存していくため、展示中の6点の絵を入れ替えます。絵の入れ替えは今年の2月以来となり、リニューアル後13回目となります。

1 展示期間

令和8年(2026年)9月2日(水)～令和9年(2027年)2月14日(日)

2 場所

広島平和記念資料館本館展示「絵筆に込めて」コーナー



3 内容

「燃えさかる猛火に追われて逃げまどう人々」に関する絵 6点(別紙参照)

(参考)

市民が描いた原爆の絵の収集は1974年(昭和49年)、一人の被爆者が自らの体験を描いた絵をNHK広島放送局に持ち込んだことがきっかけとなって始まり、資料館は現在約5,000点の絵を所蔵しています。

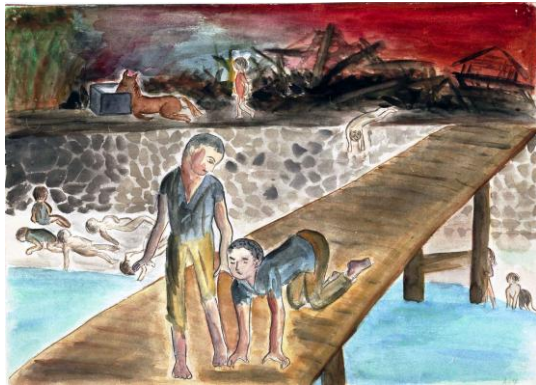
別紙



GE34-05 吉岡満子作（被爆当時18歳／絵を描いた年齢48歳）
8月6日/爆心地から1,900m/三篠町一丁目
大人も子供も男も女も異常な姿で、燃え広がる炎に追われるように列となって続いた。



GE09-19 樂本ハルコ作（29歳/59歳）
8月6日/2,030m/神田橋（京橋川）
焼けただれた人々が助けを求め「水をください」とよりかかり、手を合わせて拝む人もおりました。



GE02-02 高橋昭博作（14歳/42歳）
8月6日/2,000m/山手橋
太田川にかかっている木橋を渡った瞬間、逃げてきたあたり一帯から火の手があがった。私たちは必死に逃げた。



NG052-01 佐々木智佐子作（19歳/75歳）
1,500m/千田町一丁目/広島赤十字病院付近
想い出すことはつらい事ですが、忘れることの出来ぬこの世地獄、頭の中に残っております。



SG-0333 藤岡久之作（12歳/76歳）
8月6日/1,050～1,400m/薬研堀～鶴見橋付近
猛火の中、お互いをつなぐ綱をにぎり締め脱出してきた親子。大声で泣きながら、そのまま走っていった。



GE07-37 藤瀬朝子作（22歳/51歳）
8月6日/1,980m/比治山公園
原子の炎光は、人命を虫けらにして、かけがえのない人々を炎の中に殺していった。